

飯島虛心 いひま けんしん 浮世繪研究家。天保十一年生れ、明治二十四年八月一日歿（一八四一—一九〇一）。本名平十郎。號海外閑人、無名逸人、虛心堂等。母平坂等馬所の養子。維新後京都府編輯局の主任、教科書編輯の從事。同僚の大槻如電、柳原芳野、那珂進高等と親交、更に西村茂樹、大槻磐溪、伊藤半介等を加へて洋々社と興し、機關誌『洋々社談』を創刊、編輯の携はる。のち『讀賣新聞』、新聞『日本』等へ考證材のとり執筆。また、『葛飾北齋傳』全二冊（明治二十六年刊）、『浮世繪師歌川列傳』（玉林晴朗校訂、昭和十六年九月五日歿海書房）等を著はして、本格的浮世繪研究の先蹤者となつた。

他に『家事經濟書』（明治二十二年四月十一日博士館『博士館叢書』）、『浮世繪師傳覽』（明治二十六年九月三十日蓬樞閣）等。

